

令和2年度 基本施策評価シート

作成日 令和2年 5月28日

基本施策	A2 まちなみ、自然を活かし、まちの質を高めます		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	市域全体が	まちなみ、自然等の地域の個性を活かし、魅力的になっている。	
長崎市第四次総合計画[後期基本計画] 基本施策掲載ページ		34ページ ~ 36ページ	
基本施策主管課名	景観推進室	所属長名	嶋本 千秋
関係課名	まちなか事業推進室、中央総合事務所、観光政策課、土木建設課、都市計画課、伊王島地域センター、高島地域センター、野母崎地域センター、外海地域センター、琴海地域センター		

基本施策の評価

Cc 目標を一部達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

判断理由

基本施策の成果指標5つのうち、100%以上の目標達成率が半数以下の2つで、目標達成率が95%未満の低いものがあるため、「C」とする

個別施策の成果指標8つのうち、100%以上の目標達成率が過半数以下の3つで、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「c」とする。

【評価判断に至った成果・効果及び問題点・その要因】

A2-1 地域の景観や自然等の個性を活かしたまちづくりの推進

(1)「景観重要建造物・景観重要樹木の数」については、新規指定が0件だったため、目標を達成できなかった。これは、制度の周知不足から所有者の理解を得られず指定に至らなかったことが要因として考えられる。

(2)「日頃、「まちづくり」等の活動や運動に参加している市民の割合」については、目標を達成できなかった。これは市民が気軽に参加できる活動の場が不足していることや、定期的に開催しているワークショップ等の周知が不十分で、多くの市民に認知されていないことなどが要因として考えられる。

(3)「長崎の街並みや景観に誇りを感じる市民の割合」や「自然やまちの景観に関する観光客の満足度」については、目標値を達成できた。景観法に基づく民間の建築行為等の届出において、ながさきデザイン会議等の助言を踏まえた適切な指導等による質の高い建物の建設や、市の公共事業においても、景観専門監協議等を踏まえた適切なデザイン誘導による質の高い公共空間の整備が進んでいる。

(4)「地域資源を活かしたイベント等への参加者数」については、目標を達成できなかった。これは、天候等の影響により減少したが、地域おこし協力隊員による地域と協働での様々なイベントの開催や地域の情報発信、PR活動等を行うことで、地域の自然や風土を活かしたまちづくりを推進し、交流人口の拡大につなげている。

A2-2 まちぶらプロジェクトの推進

(1)市民や企業等が主体となってまちなかの賑わい創出に寄与する取組みを支援する「まちぶらプロジェクト認定件数」については、新型コロナウイルスの影響によるイベントの開催自粛等により目標を達成することができなかったが、まちなかの賑わいづくりの当事者としての意識醸成が徐々に図られるとともに、今後新たなまちづくりに取り組みやすい環境づくりも進んだ。

(2)「中心市街地を活気があると感じる市民の割合」については、目標値を大きく達成できなかったが、新型コロナウイルス感染拡大により人出が減少した「長崎ランタンフェスティバル」(平成31年:約98万人→令和2年:約56万人)と、市民意識調査の時期(令和2年1月23日から令和2年2月29日)が重なったことが原因と考えられ、また、「まちなか1日当たりの歩行者通行量」は目標値をおおむね達成していることから、「まちぶらプロジェクト」の各エリアのまちづくりの方向性に即したハード・ソフトの両面の取組みにより、まちなかの魅力の顕在化が進んでいるものと考えられる。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2
景観重要建造物・景観重要樹木の数	17件 (27年度)	↑ 目標値	20	23	26	29	32
		実績値	18	19	21	21	
		達成率	90.0%	82.6%	80.8%	72.4%	
日頃、「まちづくり」等の活動や運動に参加している市民の割合	39.7% (26年度)	↑ 目標値	43.1	44.8	46.5	48.2	50.0
		実績値	30.3	31.4	30.7	33.6	
		達成率	70.3%	70.1%	66.0%	69.7%	
【補助代替指標】 長崎の街並みや景観に誇りを感じる市民の割合 【A2-1から再掲】	83.1% (26年度)	↑ 目標値	84.6	85.4	86.1	86.9	87.6
		実績値	83.6	82.3	87.0	88.0	
		達成率	98.8%	96.4%	101.0%	101.3%	
【補助代替指標】 「自然やまちなかの景観」に関する観光客の満足度 【A2-1から再掲】	83.8% (25年度)	↑ 目標値	86.5	87.3	88.2	89.1	90.0
		実績値	96.6	84.8	96.9	90.5	
		達成率	111.7%	97.1%	109.9%	101.6%	
【補助代替指標】 まちぶらプロジェクト認定件数 【A2-2から再掲】	0件 (25年度)	↑ 目標値	40	50	60	70	80
		実績値	40	51	62	68	
		達成率	100.0%	102.0%	103.3%	97.1%	

※施策の成果を補完するため、補助代替指標として、A2-1及びA2-2の成果指標を再掲した。

今後の取組方針

A2-1 地域の景観や自然等の個性を活かしたまちづくりの推進

- (1) 景観重要建造物の存在や価値等を多くの市民に認知してもらうため、ホームページやSNS等を活用した広報の見直しを進めるとともに、景観重要建造物が適切に維持管理され、永続的に存続されるように所有者へのフォローアップの取組みを進める。
- (2) 景観法に基づく民間の建築行為等の届出及び屋外広告物条例に基づく許可申請を徹底するため、設計者及び施工者等の業界団体に対して周知を図る。
- (3) 地域の個性を活かしたまちづくり活動をより一層推進するため、地域おこし協力隊員の活動を積極的にサポートするとともに、隊員の定住・起業に向けた支援を図る。
- (4) 市民がまちづくりに参加できる機会を増やすため、気軽に参加できるイベントやシンポジウム、ワークショップを開催するなどの市民協働のまちづくりを推進する。また、多くの市民に周知するため、ホームページや自治会回覧だけでなく、SNS等を活用した広報の見直しを行う。
- (5) 将来の地域の担い手となる子供達が自分達のまちの景観や自然に関心を持つため、小学生を対象とした景観教室を行う。

A2-2 まちぶらプロジェクト推進 エリア別での取組みでは、以下のことに取り組む。

- (1) 新大工エリアにおいては、新大工町地区市街地再開発事業への支援や、食のまちとしての魅力を高めるための商店街の取組みへの支援を引き続き行うとともに、買い物環境や商店街へのアクセス環境等のさらなる利便性向上に取り組む。
- (2) 中島川・寺町・丸山エリアにおいては、地域主体の歳時の顕在化への取組みの支援や町家助成等を行うとともに、丸山エリアの方と意見交換をしつつ、丸山～館内において回遊性の向上に向けた取組みを行う。
- (3) 浜町・銅座エリアにおいては、浜町地区市街地再開発事業への支援を行うとともに、商店街等と連携して銅座川プロムナードの活用などの検討や路地の魅力発信に取り組む。
- (4) 館内・新地エリアにおいては、中国文化の体験ができる場の創出や、エリアを回遊するための仕組みづくり、まちの魅力の発信等を行うとともに、唐人屋敷の周辺地区を含め、面的な賑わいの創出に取り組む。
- (5) 東山手・南山手エリアにおいては、エリア内の回遊動線を強化するとともに、居留地の歴史・文化を活かした賑わいづくりを進めるため、洋館活用の仕組みづくりや魅力の情報発信などに取り組む。
- (6) 軸づくりの取組みについては、まちの玄関口や各エリアの集客拠点等を中心に、効果的に情報発信を行うとともに、現在実験を行っているエリア案内板のアクセス状況の分析を行いニーズに合った情報発信に活かす。
- (7) 地域力によるまちづくりについては、多様な主体の参画を促すため、映像等によりまちぶらプロジェクトの効果的な情報発信を行うとともに、まちなかの町家等を活用する事業者をはじめ、まちづくりを行う事業者などを支援する事業を行う。また、相乗効果を生むため、事業者間が自由につながる仕組みづくりを進める。

二次評価(施策評価会議による評価)

- 基本施策の評価「Cc」については、所管評価のとおり。
- A2-1「良好な景観形成に係る助言・指導」の取組概要について、「助言を踏まえたデザイン等の誘導を行った」が指す内容が伝わらないので、具体的な記載を検討すること。
- 歴史的風致維持向上計画の策定については、取組概要に記載すべきである。

令和2年度 個別施策評価シート

個別施策	A2-1 地域の景観や自然など個性を活かしたまちづくりを推進します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	景観や自然等の地域の個性が	まちづくりに活かされている。	
個別施策主管課名	景観推進室	所属長名	嶋本 千秋

令和元年度 of 取組概要

- ①良好な景観形成に係る助言・指導
- ・建造物の外観に地域の景観上の特徴を有し、良好な景観を形成するうえで重要な建造物である景観重要建造物の維持管理に係る助成2件を行った。また、新規指定は0件であった。
 - ・景観法に基づく民間の建築行為等の届出があった144件に対して、景観計画の景観形成基準に基づく指導・助言を行うとともに、大規模な建築物等については、「ながさきデザイン会議」20件や、町家等への改修に際し、「ながさきデザインアドバイザー協議」4件の助言など、その地域の特色に応じたデザインや色彩へと誘導を行った。
 - ・屋外広告物条例に基づく許可申請のあった610件に対して、指導・助言を行った。また、許可申請の徹底を図るため、設計・施工業者等の業界団体に対して通知文による周知を行った。
- ②公共空間のデザイン向上
- ・良好な景観形成を先導するため、景観法等に基づく公共工事の通知のあった180件に対して、指導・助言を行うとともに景観形成重点地区等における市の公共事業について、景観専門監協議 267回、「ながさきデザイン会議」22件、「ながさきデザインアドバイザー協議」12件の助言など、その地域の特色に応じたデザインや色彩へと誘導を行った。
 - ・市職員の景観に対する意識と技術の向上を図るため、景観専門監による「長崎市景観専門監レポート」を活用したOJTを行った。
 - ・全国の若手技術者や大学生が参加して公共空間のデザイン設計演習を行う「九州デザインシャレット」の開催に協力し、市職員が講座やグループワークの見学、提案発表等に参加した。
 - ・安全で快適な誘導・案内のため、景観に配慮した都市サインの改修 62箇所を行った。
- ③地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(地域おこし協力隊事業にかかる取組み)
- ・平成30年度に第2期地域おこし協力隊の任期が終了したことから、令和元年度は、引き続き受入れ希望があった5地区(伊予島地区、高島地区、野母崎地区、外海地区、琴海地区)に隊員の募集を実施した。(琴海地区に配置が決定。他の地区については、配置が決定しなかったため、令和2年度に引き続き募集予定)
- ④地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(その他の取組み)
- ・周辺地区の地域活性化の取組みとして、地元の各種団体や自治会、市民グループで構成する実行委員会等が開催するイベントの支援に取組んだ。
 - ・池島炭鉱体験施設を活用した体験型観光の取組みとして、県外からの観光客を呼び込むため、指定管理者による九州各県へのチラシの新聞折り込みや、首都圏や市内の大型イベントにおけるチラシの配布等のPR活動を行った。また、毎月1回、地元自治会をはじめとした各種地域団体の代表者、学校、池島炭鉱の指定管理者、行政等の関係者が一堂に会し、池島におけるまちづくりの方向性の検討や情報共有等を図る「池島活性化会議」において、炭鉱体験事業の振興に係る意見交換を行う等、地域が一丸となって集客に取り組んだ。
 - ・野母崎田の子地区再整備の取組みとして、地域の産業団体が中心となり、地域振興と産業の活性化に資することを目的に、「野母崎産業活性化協議会」を設立した。恐竜博物館建設にあわせて物販、飲食及び地域情報発信を行う拠点づくりについて検討を開始した。旧長崎県亜熱帯植物園の植物(アジサイ・ピンクイペー・ビロウ)を移植した。
- ⑤市民協働の推進
- ・将来の地域の担い手となる子供達が地域の景観や自然に関心を持ち郷土愛を深めるため、小学校にて景観教室を行った。
 - ・景観まちづくり連絡協議会と連携して、景観まちづくり先進都市視察(佐賀県鹿島市、嬉野市)を開催し、町並み保存活動団体との意見交換を行った。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2
長崎の街並みや景観に誇りを感じる市民の割合【A2へ再掲】	83.1% (26年度)	↑ 目標値	84.6	85.4	86.1	86.9	87.6
		実績値	83.6	82.3	87.0	88.0	
		達成率	98.8%	96.4%	101.0%	101.3%	
「自然やまちの景観」に関する観光客の満足度【A2へ再掲】	83.8% (25年度)	↑ 目標値	86.5	87.3	88.2	89.1	90.0
		実績値	96.6	84.8	96.9	90.5	
		達成率	111.7%	97.1%	109.9%	101.6%	
景観まちづくりガイドラインの策定地区数	2地区 (27年度)	↑ 目標値	2	2	3	3	4
		実績値	2	2	2	2	
		達成率	100.0%	100.0%	66.7%	66.7%	
【補助代替指標】 地域資源を活かしたイベント等への参加者数	65,822人 (21年度)	↑ 目標値	67,200	61,400	61,600	68,000	57,000
		実績値	66,953	53,336	70,496	52,098	
		達成率	99.6%	86.9%	114.4%	76.6%	

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①良好な景観形成に係る助言・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観重要建造物の適切な保全のための改修助成により、良好な街並み形成が進み、景観に誇りを感じる市民の割合が増加した。 ・景観法に基づく民間の建築行為等の届出に対する指導・助言及び「ながさきデザイン会議」、「ながさきデザインアドバイザー」の助言等によるデザイン誘導により、良好な街並み形成が進み、景観に誇りを感じる市民の割合が増加した。 ・屋外広告物条例に基づく許可申請に対する指導・助言を行うとともに、適切な維持管理を行うための点検義務を追加した条例改正により、良好な街並み形成と公衆に対する危害防止の推進が図られ、景観に誇りを感じる市民の割合が増加した。 	<p>①良好な景観形成に係る助言・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観重要建造物の改修を行うことにより、周辺の建物に良い影響を与え、良好な街並みの形成に活かされている。 ・適切な指導・助言により、景観に配慮された建物が増加し、良好な街並み形成につながった。 ・適切な指導・助言や点検義務化により、景観に配慮された安全な屋外広告物が増加し、良好な街並み形成につながった。
<p>②公共空間のデザイン向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観専門監協議や「ながさきデザイン会議」等の指導・助言による夜間景観整備やまちなかの回遊路、稲佐山山頂駅舎等の整備を行い、質の高い公共空間が増加した。 ・景観専門監による「長崎市景観専門監レポート」を活用したOJTにより、職員の景観に関する意識と技術の向上が図られた。 	<p>②公共空間のデザイン向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な指導・助言により、良好な景観形成を先導する質の高い公共空間が増加し、良好な景観形成につながった。 ・職員の景観に関する意識と技術の向上が図られたことにより、良好な景観形成を先導する質の高い公共空間が増加し、良好な景観形成につながっている。
<p>③地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(地域おこし協力隊事業にかかる取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新隊員の募集を実施し、配置が決まった琴海地区では、新たな魅力の掘り起こしや、多様な情報発信ツールの活用による域外への魅力発信を進めるための活動を開始できた。 	<p>③地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(地域おこし協力隊事業にかかる取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隊員や旧隊員が地域と協働で、地域の特徴を活かした独自の活動を行ったことにより、地域活性化につながっている。

<p>④地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(その他の取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺地区の地域資源を活かしたイベントの開催等の支援をしたが、天候等の影響により参加者は減少した。 ・池島炭鉱体験施設を活用した取組みとして、様々なPR活動の実施により、県外からの集客につながった。また、「池島活性化会議」を中心とした地域内部での連携及び地域と行政との連携による観光客の受入体制が構築されている。 ・恐竜博物館の建設を契機ととらえ、地元が主体的に地域振興や産業の活性化に取り組む気運が高まっている。また、旧長崎県亜熱帯植物園の植物を移植することで、野母崎田の子地区の魅力が向上した。 	<p>④地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(その他の取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域が主体となった地域の個性を活かしたイベント開催等の取組みを継続することにより、地域の活性化につながっている。 ・効果的なPR活動による集客及び地域と行政との連携による受入体制の構築により、地域の活性化につながっている。 ・恐竜博物館の集客力を活かしながら、地元が主体となった、拠点施設の運営が行われ、地域振興と産業の活性化につながっている。 旧長崎県亜熱帯植物園の植物移植により、地域の魅力向上が図られた。
<p>⑤市民協働の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の地域の担い手となる子供達への景観教室の開催により、地域の景観や歴史への関心が高まった。 ・景観まちづくり先進都市視察により、先進的な地域活動団体と意見交換を行うことで、景観まちづくりに対する市民の意識醸成が図られた。 	<p>⑤市民協働の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の景観まちづくりに対する意識醸成が進み、自分達のまちに誇りや愛着を持つ市民が増加し、市民主体のまちづくりにつながった。 ・地域の景観や歴史への関心を持ち、自分達のまちに誇りや愛着を持つ子供達が増加し、将来のまちづくりの担い手の確保につながっている。 ・優れた取組みを自分達のまちづくりに取り込むことで、良好な景観まちづくりにつながった。

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①良好な景観形成に係る助言・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観重要建造物の指定にあたっては、現状変更の規制がかかることに所有者の理解を得られず指定できない場合がある。 ・景観重要建造物に指定したものであっても、老朽化による維持管理の難しさや後継者不足から、解体される場合がある。 ・景観法に基づく届出が必要な行為であっても未届のまま建築行為等が行われる場合がある。 ・屋外広告物条例に基づく許可申請が必要なものであっても、未申請のまま表示・設置される場合がある。 	<p>①良好な景観形成に係る助言・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所有者や市民に対して景観重要建造物の制度の周知が不足している。 ・景観重要建造物が適切に維持管理され、永続的に存続させるための所有者へのフォローアップが不足している。 ・建築主及び設計者、施工者の認識が不足している。 ・広告主及び設計者、施工者の認識が不足している。
<p>②公共空間のデザイン向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての職員の景観に対する意識醸成が十分とは言えない。 	<p>②公共空間のデザイン向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観専門監プロジェクトさるくツアーや全職員を対象とした講習会等が十分に開催できていない。
<p>③地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(地域おこし協力隊事業にかかる取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隊員が任期終了後、地域に定住・起業して、引き続き地域活性化に携わることができていない。 	<p>③地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(地域おこし協力隊事業にかかる取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の担い手不足等により、隊員の業務が多様化・多忙化してきているため、隊員の活動を行いながら任期終了後の定住・起業に向けた準備を行うことが難しい状況にある。

<p>④地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(その他の取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のまちづくりの組織が弱体化している。 ・池島炭鉱跡を活用した体験型観光の取組みを継続するには、環境整備等地域との連携が不可欠であるが、人材確保が難しくなっている。 ・野母崎田の子地区再整備の取組みについては、地域の産業団体が中心となり、地元が主体となった地域振興や産業の活性化につながる活動を行っているが、これらの活動が地域全体に広がっていない。 	<p>④地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(その他の取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島内に基幹産業がなく、住民の高齢化や島外転出により、著しく過疎化が進行している。 ・人口減少や高齢化により、まちづくりの担い手となる人員が不足している。
<p>⑤市民協働の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくり」等の活動や運動に参加している市民の割合が低く伸び悩んでいる。 ・景観形成重点地区のうち、深堀地区以外は景観計画の景観形成基準を補完する、より具体的なデザインなどを示したまちづくりガイドラインが策定されていない。 ・将来の地域のまちづくりの担い手が不足している。 	<p>⑤市民協働の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が気軽に参加できる活動の場が不足していることや、定期的に開催しているワークショップ等の周知が不十分で、多くの市民に認知されていない。 ・地域住民のガイドライン策定に向けた意識の醸成が図られていない。 ・地域の子供達が自分達のまちの景観や歴史に対する関心が不足している。

今後の取組方針

<p>①良好な景観形成に係る助言・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観重要建造物の存在や価値等を多くの市民に認知してもらうため、ホームページやSNS等を活用した取組みを進める。 ・景観重要建造物が適切に維持管理され、永続的に存続されるように所有者へのフォローアップの取組みを進める。 ・景観法に基づく民間の建築行為等の届出を徹底するため、設計者及び施工者等の業界団体に対して周知を図る。 ・屋外広告物条例に基づく許可申請を徹底するため、設計者及び施工者等の業界団体に対して周知を図る。 <p>②公共空間のデザイン向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市職員の景観に対する技術研鑽のため、景観専門監によるOJTに加え、景観専門監プロジェクトさるくツアー及び「長崎市景観専門監レポート」を活用した一般職員及び管理職員を対象とした講習会等を開催する。 <p>③地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(地域おこし協力隊事業にかかる取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隊員の活動の支援だけでなく、隊員の任期終了後の定住・起業に向けた支援を合わせて行う。 <p>④地域の自然や風土を活かしたまちづくりの推進(その他の取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のまちづくりの担い手確保の支援を行うとともに、イベントの効果的な運営、PR等について地域との協働を進める。 ・令和2年度中は、引き続き池島炭鉱体験施設を中心とした地域の活性化を図るが、施設の現指定管理者の指定管理期間が令和2年度までとなり、来年度以降の方針は、現指定管理者と協議中。 ・野母崎田の子地区再整備については、「野母崎産業活性化協議会」が中心となり、拠点施設の配置計画や運営組織について具体的な検討を進めていくとともに、地元の特産品を生かした商品の開発やイベントの企画を行う。また、これらの活動を自治会等の協力を得ながら地域全体の活動に広げていく。 <p>⑤市民協働の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民がまちづくりに参加できる機会を増やすため、シンポジウムやワークショップの他に気軽に参加できるまちづくりイベント等を開催する。また、多くの市民に周知するため、ホームページや自治会回覧だけでなく、SNS等を活用した広報の見直しを行う。 ・景観まちづくりガイドラインの整備に向けた地域住民参加型のワークショップや講習会を開催する。 ・将来の地域の担い手となる子供達が自分達のまちの景観や自然に関心を持つために景観教室を行う。
--

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
1	(事業名) 屋外広告物対策費 【景観推進室】 (事業目的) 屋外広告物の規制や違反広告物の簡易除却等を通じて、良好な景観形成と風致の維持を図る。 (事業概要) ・屋外広告物許可制度の運用。 ・違反広告物の簡易除却。 ・屋外広告物に関する講習会の開催。 ・ふれあい掲示板の運用。	実施年度	継続	
		成果指標	屋外広告物許可申請件数	
		目標値	680 件	655 件
		実績値	557 件	610 件
		達成率	81.9 %	93.1 %
		決算(見込)額	4,322,866 円	5,868,639 円
		成果指標及び目標値の説明	良好な景観形成を図るためには、適法に許可を受けた屋外広告物を増やしていくことが必要であるため、許可申請件数を評価指標として設定した。 平成27～29年度申請件数実績の3ヶ年平均680件を目標値として設定した。	良好な景観形成を図るためには、適法に許可を受けた屋外広告物を増やしていくことが必要であるため、許可申請件数を評価指標として設定した。 平成28～平成30年度申請件数実績の3ヶ年平均655件を目標値として設定した。
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 許可申請件数 557件	(取組実績) 許可申請件数 610件		
	(成果・課題等) 平成25年度に実施した掲出状況実態調査の成果に基づき、現地調査を行い、申請指導を継続して実施した。引き続き、未許可広告物の申請指導に計画的に取り組む。	(成果・課題等) 平成25年度に実施した掲出状況実態調査の成果に基づき、現地調査を行い、申請指導を継続して実施した。引き続き、未許可広告物の申請指導に計画的に取り組む。		
2	(事業名) 景観推進費 【景観推進室】 (事業目的) 長崎市景観条例及び景観計画に基づき、景観形成に資する関連施策を積極的に推進して、自然と歴史に育まれた長崎らしい魅力あるまちづくりを展開する。 (事業概要) ・建築物等の色彩、デザインに関する助言、指導 ・景観まちづくり団体に対する助成及び助言、指導 ・景観の形成に係る整備、助成 ・景観専門監の設置 ・景観まちづくりの普及及び啓発に係るイベント、研修、講演会等の開催	実施年度	継続	
		成果指標	景観重要建造物の数	
		目標値	26 件	29 件
		実績値	21 件	21 件
		達成率	80.8 %	72.4 %
		決算(見込)額	4,096,362 円	5,642,679 円
		成果指標及び目標値の説明	景観重要建造物は、地域の景観形成に重要なものとして市が指定した建造物で、所有者には適正に管理する義務が発生するため、その数が増えることは、景観やまちなみが良好に保全され、個性が活かされていることにつながると言えることから、当該指標とした。 後期基本計画では、毎年度3件の指定を目標値とした。	
取組実績、成果・課題等	(取組実績) ・景観協議の262件に対し、指導等を行った。 ・景観専門監の助言を基に263件の指導等を行った。 ・景観重要建造物を新たに3件指定し2件改修助成を行った。	(取組実績) ・景観協議の332件に対し、指導等を行った。 ・景観専門監の助言を基に267件の指導等を行った。 ・景観重要建造物の2件改修助成を行った。		
	(成果・課題等) ・景観資源を保全するため、景観重要建造物の周知や活用、所有者に対する支援を行う必要がある。 ・事業者や一般市民に対して長崎市の景観施策について周知と意識啓発を図る必要がある。	(成果・課題等) ・景観資源を保全するため、景観重要建造物の周知や活用、所有者に対する支援を行う必要がある。 ・事業者や一般市民に対して長崎市の景観施策について周知と意識啓発を図る必要がある。		

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
3	<p>(事業名) ながさきデザイン会議費 【景観推進室】</p> <p>(事業目的) 公共事業及び大規模な建築物等の民間事業について、地域の特徴を活かしたデザインに配慮された質の高い公共空間をつくり、長崎の魅力を高めるため、計画段階から建築、デザイン、色彩の専門家によるデザイン等に関する助言を行う。</p> <p>(事業概要) ・建築物等の色彩、デザインに関する助言</p>	実施年度	継続	
		成果指標	ながさきデザイン会議の回数	
		目標値	12 回	12 回
		実績値	13 回	13 回
		達成率	108.3 %	108.3 %
		決算(見込)額	342,750 円	254,750 円
		成果指標及び目標値の説明	ながさきデザイン会議においては、公共事業及び民間事業ともに、計画的かつ細やかな助言を行うことにより、より質の高い公共空間となりうるため、ながさきデザイン会議の回数を成果指標とした。月に1度開催する計画とし、目標値を年12回とした。	
取組実績、成果・課題等	(取組実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・ながさきデザイン会議を13回開催した。 ・民間事業 20件に対し、助言を行った。 ・公共事業18件に対し、助言を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ながさきデザイン会議を13回開催した。 ・民間事業 20件に対し、助言を行った。 ・公共事業22件に対し、助言を行った。 	
	(成果・課題等)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特徴を活かしたデザインに配慮された。 ・ながさきデザイン会議において、景観形成に基づく景観形成基準を補完するガイドラインの作成が求められている。 ・会議を計画的かつ定期的に開催する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特徴を活かしたデザインに配慮された。 ・ながさきデザイン会議において、景観形成に基づく景観形成基準を補完するガイドラインの作成が求められている。 ・会議を計画的かつ定期的に開催する必要がある。 	
4	<p>(事業名) 過疎地域活性化事業費 【伊王島地域センター】 【高島地域センター】 【野母崎地域センター】 【外海地域センター】</p> <p>(事業目的) 過疎地域である伊王島地区、高島地区、野母崎地区、外海地区において、地域の住民や団体等が主体となってイベントを開催することで、過疎地域の魅力発信及び交流人口の拡大に寄与し、地域活性化を図る。</p> <p>(事業概要) 開催イベント ①伊王島フェスタ ②UMIBOUZ in 高島 ③しまめぐり双六in高島 ④高島杯小学生バドミントン大会 ⑤のもぎき水仙まつり ⑥野母崎地区活性化イベント ⑦鯉・来い祭りIN神浦川河川公園 ⑧神浦さんぼみち</p> <p>※令和元年度から事業見直しを実施。 H30「地域活性化事業費負担金」のうち過疎地域振興に取り組む事業を「過疎地域活性化事業費」としてR11に創設、事業整理を行った。</p> <p>【A3-1へ再掲】</p>	実施年度	継続	
		成果指標	集客人数	
		目標値	61,600 人	68,000 人
		実績値	70,496 人	52,098 人
		達成率	114.4 %	76.6 %
		決算(見込)額	9,441,723 円	8,615,273 円
		成果指標及び目標値の説明	交流人口の増加を図るためには、イベントにより集客を増やすことが必要のため、集客人数を成果指標とした。	
取組実績、成果・課題等	(取組実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・伊王島フェスタ:7,128人 ・UMIBOUZ in 高島:11,359人 ・しまめぐり「双六in高島」:190人 ・高島小学生バドミントン大会:168人 ・のもぎき水仙まつり:37,151人 ・野母崎地区活性化イベント:4,000人 ・琴海花まつり:10,500人 	<ul style="list-style-type: none"> ・伊王島フェスタ:8,848人 ・UMIBOUZ in 高島:8,355人 ・しまめぐり「双六in高島」:198人 ・高島小学生バドミントン大会:191人 ・のもぎき水仙まつり:27,236人 ・野母崎地区活性化イベント:100人 ・鯉・来い祭りIN神浦川河川公園:3,670人 ・神浦さんぼみち:3,500人 	
	(成果・課題等)	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントを通して地域間交流や地域の活性化につなげることができた。 ・今後もイベントの内容を見直ししながら、交流人口の拡大につなげていく。 <p>※実績値等は「地域活性化事業費負担金」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・天候などの影響により集客数が減となったが、イベントを通して地域間交流や地域の活性化につなげることができた。 ・今後もイベントの内容を見直ししながら、交流人口の拡大につなげていく。 	

令和2年度 個別施策評価シート

個別施策	A2-2 まちの回遊性を高め、歩いて楽しいまちなかをつくります					
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図				
	まちなかが	市民や観光客で賑わっている。				
個別施策主管課名	まちなか事業推進室	所属長名	濱崎 高行			

令和元年度の取組概要

歩いて楽しいまちなかとするため、「まちぶらプロジェクト」に基づきハード・ソフトの両面から取り組みを実施した。

①エリア別の主な取組み

【新大工エリア】

- ・新大工町地区市街地再開発事業の支援や再開発工事の仮囲いを利用した案内板等の設置の支援を行った。
- ・買い物環境の向上のため、商店街に休憩施設の設置を行った。
- ・味彩まつりなどに合わせて開発した新商品の情報発信を行った。

【中島川・寺町・丸山エリア】

- ・エリアの和の魅力を高めるため、まちなみ形成のための町家助成を行った。
- ・まちぶら案内板の設置や夜間景観整備などの回遊環境の整備や民間活力によるイベント等の支援を行った。

【浜町・銅座エリア】

- ・浜町地区市街地再開発事業に対する支援を行った。
- ・銅座川プロムナードの整備に向けた用地買収を行った。
- ・銅座川プロムナードの活用等に向けた地域主体のイベントへの支援を行った。

【館内・新地エリア】

- ・土神堂前広場の整備・検討を行った。
- ・唐人屋敷跡の顕在化に係る整備や魅力の発信を行った。

【東山手・南山手エリア】

- ・文化財、伝統的建造物の保存整備を進めるとともに、夜間景観や休憩施設等の整備を推進した。
- ・民間活力による案内板設置や案内所への支援を行った。
- ・歴史的風致維持向上計画の策定を行った。

②軸づくりの取組み

- ・まちなかの魅力を伝える映像の放映や誘導案内板の設置を行った。
- ・民間活力による案内所の設置や回遊イベントへの支援を行った。

③地域力によるまちづくり

- ・まちなかの賑わい創出に取り組む市民等の活動を促進するための助成を行った。
- ・賑わい創出に寄与する市民等の取組みをまちぶらプロジェクトに認定した。
- ・まちなかの町家等を活用する助成制度を新設した。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2	
まちなか1日当たりの歩行者通行量 【E5へ再掲】	平日 133,211人 (26年度)	↑	目標値	136,000	137,300	138,700	140,100	141,200
			実績値	140,294	140,964	141,528	138,697	
			達成率	103.2%	102.7%	102.0%	99.0%	
	休日 125,438人 (26年度)	↑	目標値	127,900	129,200	130,400	131,700	132,900
			実績値	145,197	133,302	130,119	134,373	
			達成率	113.5%	103.2%	99.8%	102.0%	

中心市街地(浜町～長崎駅～新大工地区周辺)を活気があると感じる市民の割合※1	40.6% (26年度)	↑	目標値	42.7	43.8	44.8	45.9	46.9
			実績値	39.5	34.0	41.4	30.8	
			達成率	92.5%	77.6%	92.4%	67.1%	
【補助代替指標】まちぶらプロジェクト認定件数※2	0件 (25年度)	↑	目標値	40	50	60	70	80
			実績値	40	51	62	68	
			達成率	100.0%	102.0%	103.3%	97.1%	

※1 平成30年度からは、「長崎市の中心市街地長崎駅～新大工～中島川～浜町～新地～山手地区周辺)は昨年度に比べ活気(賑わい)があると感じますか」に変更した。
 ※2 まちぶらプロジェクトの認定を受けた企業・団体等の活動も、まちなかの賑わいづくりに寄与しているため、補助代替指標として設定した。

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①エリア別の取組み</p> <p>【新大工エリア】 ・新大工町地区市街地再開発組合の理事会等に約40回職員が出席し、技術的助言などを行った。 ・市が商店街にベンチ2基を設置するとともに、民間活力による工事の仮囲いを利用したまちぶら案内板の設置(1か所)を支援した。 ・あじさいまつりで配布するマップに「味彩まつり」の取組みを掲載し、約2,000枚を配布した。</p> <p>【中島川・寺町・丸山エリア】 ・町家風外観形成に対する助成を3件行った。</p> <p>・十三夜のつどいなど、長崎の歳時に合わせたイベント(6件)などが地域が主体となって開催された。 ・まちぶら案内板の設置(1か所)や眼鏡橋、丸山公園周辺などのライトアップ工事などの環境整備を行った。 ・民間活力によるマップの作成などまち歩きを楽しむ取組みの支援を行った。</p> <p>【浜町・銅座エリア】 ・再開発に係る合意形成のため準備組合が実施する理事会等に約20回職員が出席し、技術的助言などを行った。</p> <p>・銅座川プロムナードの整備に係る用地買収をA=104㎡、補償6件を実施するとともに、プロムナード活用に向けた社会実験としてイベント(銅座サルディンまつり)を行い、1,500人が集まった。</p> <p>【館内・新地エリア】 ・景観デザインのワークショップ(九州デザインシャレット)を通じて土神堂前広場のデザイン案を検討した。 ・土神堂の塀の工事を行った。 ・作成した唐人屋敷跡探訪マップを、まちなかエリア内で約6,500部(日・英合計)を配布した。</p> <p>【南山手・東山手エリア】 ・英国領事館やグラバー住宅などの居留地の歴史的な建造物の保存整備を進めた。 ・祈念坂や大浦天主堂などのライトアップを行うことでエリアの景観の整備が進んだ。 ・休憩施設としてベンチ(2基)を設置した。 ・民間活力による洋館を活用したイベントの開催やエリアの案内板の作成を支援した。 ・歴史的風致維持向上計画が認定された。</p>	<p>①エリア別の取組み</p> <p>【新大工エリア】 ・工事が着工したことで、地元の完成への期待感が高まった。 ・商店街内の買い物環境の向上や利便性の向上に繋がった。</p> <p>・地元の市場の食の魅力が発信された。</p> <p>【中島川・寺町・丸山エリア】 ・歳時の顕在化、町家の助成等により、エリア全体の和の魅力が向上し、エリア内に7件の新規出店があった。 ・中島川界隈でイベントが継続的に開催され、集客に繋がった。 ・エリアの入口部でエリアの情報発信を行うことや、周辺の環境が整ったこと、民間によるエリアの案内マップ作成などの動きが生まれたことで、回遊性の向上が図られた。</p> <p>【浜町・銅座エリア】 ・浜町地区市街地再開発事業に係る協議を重ねることで、一部街区において、事業の具体化に向けた体制づくりが図られるなど、事業の具体化に向けた機運が高まった。 ・銅座川プロムナードの事業の具体化に向け機運が高まったとともに、飲食だけでなく小売りも含めた路地の商業的な活用の可能性が高まった。</p> <p>【館内・新地エリア】 ・広場の完成や活用についてイメージが具体化され、今後の検討に活かせるようになった。 ・市民及び観光客に対して、唐人屋敷跡の魅力の発信がなされ、認知度向上が図られた。</p> <p>【南山手・東山手エリア】 ・文化財等の保存及び夜間景観や休憩所の整備をおこなったことにより、エリアの魅力が向上した。</p> <p>・民間活力によるイベントや案内板の設置などによりまちの魅力が発信され、エリアの回遊性の向上に繋がった。 ・山手エリアのまちづくりに対する機運が高まった。</p>

<p>②軸づくりの取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・官民による案内板の設置や、認定事業者の取組み・まちの魅力等を発信する映像の放映を行った。 ・民間活力によるエリア外からの来街者の誘導や自作のマップの配布など回遊性を高める取組みを支援した。 	<p>②軸づくりの取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民や観光客にまちの魅力が周知が図られた。 ・案内板の設置や民間活力による取組みにより回遊を楽しむ仕掛け作りが進んだ。
<p>③地域力によるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかの賑わいを創出しようとする市民等の初動期の活動に対し助成(4件)を行った。 ・賑わい創出に寄与する市民や企業等の取組みをまちぶらプロジェクトに認定した(6件)。 ・まちなか町家等活用助成金の要綱の制定を行った。 	<p>③地域力によるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップの支援等を通じ、イベントの実施や案内板等が作成され更なる賑わいに繋がった。 ・まちなかの賑わいづくりの当事者としての意識醸成がなされた。また、認定事業者の連携による相乗効果も生まれた。 ・まちなかの町家等を活用し、ハード・ソフト両面からまちづくりに取り組みやすい環境づくりが進んだ。

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①エリア別の取組み</p> <p>【新大工エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリア外への移転や閉店が見受けられ、商店街の通行量が伸び悩んでいる。 <p>【中島川・寺町・丸山エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・眼鏡橋などの集客拠点の賑わいをエリア全体に十分に波及できていない。 ・丸山の魅力について情報発信が十分ではなく、来街者の花街文化の体験に繋がっていない。 <p>【浜町・銅座エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの将来像が十分に共有できておらず、再開発事業の検討に時間を要している。 ・座る場所が少ない、多目的トイレが遠い等の利便性向上を求める声が寄せられており、トイレなどまち歩きを助ける情報が地元や観光客に伝わっていない。 ・銅座川プロムナード完成後のイメージが地域と共有できておらず、銅座川プロムナードと路地や周辺環境の連携のイメージができていない。 ・路地ごとの個性が十分に発信されておらず、路地を巡る人がまだ増えていない。 <p>【館内・新地エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・唐人屋敷跡の認知度が他のエリアの拠点に比べると未だ低く、年間を通して来街者の増加に繋がっているとは言えない。 ・新地エリアと館内エリアの連携が不十分であり、賑わいが館内エリアに波及していない。 ・エリアの拠点となる場所が活かしきれしていない。 <p>【南山手・東山手エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラバー園などの集客拠点の賑わいをエリア全体に十分に波及できていない。 ・エリアに点在する各種洋館において、魅力的な活用が図られていない。 	<p>①エリア別の取組み</p> <p>【新大工エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客拠点が工事により一時閉店していることで、商店街全体への賑わいの波及効果が低くなっている。 <p>【中島川・寺町・丸山エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリアの魅力が十分に伝わっていない。 ・丸山エリアの情報発信が充分でないとともに、他エリア～丸山間の回遊路が分かりにくい。 <p>【浜町・銅座エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地権者間の合意形成が十分にできていない。 ・まち歩きを助ける情報の発信が十分ではない。 ・銅座川プロムナードの活用に向けた具体的な協議等が十分に行えていない。 ・路地沿線の店舗の賑わいづくりに向けた意識が高まっておらず、路地ごとの個性を顕在化する取組みが十分に行えていない。 <p>【館内・新地エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・唐人屋敷跡の魅力の発信が十分ではないことや、館内エリアにおいて、中国文化を体験ができる場所が少ない。 ・エリア内のハード整備が進行中である。 <p>【南山手・東山手エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリアの魅力が十分に伝わっていない。 ・洋館活用の仕組みができておらず、居留地を体感できる店舗が少ない。

<p>②軸づくりの取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかを訪れた来街者に対し、まちなかの魅力が十分に伝わっていない。 ・長崎駅などの玄関口を訪れた方のまちなかへの誘導が十分にできていない。 	<p>②軸づくりの取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎駅などの玄関口や各エリアの集客拠点において、効果的かつ十分な情報発信ができていない。
<p>③地域力によるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりに対して主体的に取り組む地域や企業などによる参画拡大の余地がある。 ・活動が途絶えている事業者もあり、継続できている事業が少ない。 	<p>③地域力によるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と民間の新たな関係づくりの不足やまちぶらプロジェクトの認知度の向上が進んでいないため、民間が新たにまちづくりの一員として参画するきっかけが作れていない。 ・認定事業者間が連携する場づくりが不十分である。

今後の取組方針

<p>①エリア別の主な取組み</p> <p>【新大工エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新大工町地区市街地再開発事業が予定通り令和4年度に完成するよう、引き続き支援する。 ・食のまちとしての魅力を高めるための商店街の取組みを引き続き支援するとともに、買い物環境や商店街へのアクセス環境等のさらなる利便性向上を図る。 <p>【中島川・寺町・丸山エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域主体の歳時の顕在化への取組みの支援や町家助成等を引き続き行い、和の魅力を高める。 ・丸山エリアの方と意見交換をしつつ、丸山～館内において、回遊性向上のための取組みを行う。 <p>【浜町・銅座エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜町地区市街地再開発準備組合への支援を引き続き実施する。 ・来街者の買い物やまち歩きの際に利用できる施設や取組みなどの情報発信を行う。 ・銅座川プロムナードの活用に向けた協議や社会実験等を行うことにより、完成後の活用方法や運営主体等の具体化に向けた検討を行う。 ・路地の魅力や個性を体感してもらえるよう、情報発信を引き続き行う。 <p>【館内・新地エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国文化の体験ができる場の創出や、エリアを回遊するための仕組みづくり、まちの魅力の発信等に取り組む。 ・唐人屋敷跡のみではなく丸山や小島養生所跡を含め、面的な賑わいの創出に取り組む。 <p>【東山手・南山手エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洋館の活用の仕組みづくりや魅力の発信などに地域と連携して取組み、居留地の歴史・文化を活かした賑わいづくりを進める。 ・松が枝国際ターミナルなどの玄関口からの誘導やエリア内の回遊ルート強化に取り組む。 ・空き家や空き地の活用、新規出店の推進を図るため、土地利用の規制等の見直しの検討を引き続き行う。 <p>②軸づくりの取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各エリアの魅力、エリア間の回遊性向上のための情報発信を行う。 ・長崎駅などの玄関口や各エリアの集客拠点等を中心に、映像等を使って効果的に情報発信を行うとともに、現在実験を行っているエリア案内板に設置したQRコードのアクセス情報などから、市民や観光客のまちなかに対する関心や情報収集に利用しているツールについて分析を行い、ニーズに合った情報発信に取り組む。 <p>③地域力によるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な主体の参画を促すため、映像等により、まちぶらプロジェクトに係る効果的な情報発信を行うとともに、まちなかの町家等を活用する事業者をはじめ、まちづくりを行う事業者などを支援する事業を行う。 ・まちなか賑わいづくり支援事業やまちぶらプロジェクト認定制度でまちづくりを行う事業者の支援を行うとともに、相乗効果を生むために、事業者間が自由につながる仕組みづくりを進める。
--

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度	
1	<p>(事業名) まちなか再生推進費</p> <p>【まちなか事業推進室】</p> <p>【E5-2へ再掲】</p> <p>(事業目的) まちなかの人の回遊性を促すため、まちなか軸の活性化を中心に、各エリアの魅力を高める。</p> <p>(事業概要) ・地域まちづくり活動支援の取り組み ・まちなみ整備等の取り組み ・まちなか賑わいづくり活動の支援など</p>	実施年度	継続		
		成果指標	まちなかの1日あたりの歩行者通行量		
		目標値	平日138,700人 休日130,400人(%)、人、円など	平日140,100人 休日131,700人(%)、人、円など	
		実績値	平日141,528人 休日130,119人(%)、人、円など	平日138,697人 休日134,373人(%)、人、円など	
		達成率	平日102% 休日99.8%	平日99.0% 休日102%	
		決算(見込)額	15,580,690 円	12,597,186 円	
		成果指標及び目標値の説明	<p>歴史や文化を実感でき、またこれらを発信することで、人々が集い賑わうまちなかを目指すため、歩行者通行量を成果指標とした。</p> <p>令和2年度までに1日あたり平日141,200人、休日132,900人を目指す。</p>		
		取組実績、成果・課題等	(取組実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・町家等の保全、顕在化のための助成(3件) ・まちなか賑わいづくり活動支援補助(4件) ・「栗名月十三夜」「厄入りまつり」などの歳時に合わせたイベントの実施 ・唐人屋敷周辺の「唐人屋敷マップ」の作成 ・新大工・山手周辺の休憩施設整備の実施 ・まちぶらプロジェクトの取組み概要やまちの魅力を発信する映像の作成 ・長崎おもてなしトイレの開放(1件) 	<ul style="list-style-type: none"> ・町家等の保全、顕在化のための助成(3件) ・まちなか賑わいづくり活動支援補助(4件) ・「栗名月十三夜」「夜市」などの歳時に合わせたイベントの実施 ・館内エリアで景観デザインのワークショップを開催し、土神堂前広場の提案を実施。 ・新大工・山手周辺の休憩施設整備の実施 ・まちぶらプロジェクトの取組み概要やまちの魅力を発信する映像の放映(約96か所) ・賑わい創出に寄与する市民等の取組みをまちぶらプロジェクト認定(6件)
			(成果・課題等)	<p>目標を達成し、館内周辺の「唐人屋敷マップ」の発刊など、まちなかの魅力を発信するとともに、まちなかの賑わい創出に繋がる取組みを推進した。</p> <p>オーガニックをテーマに賑わいを生み出した「ながさきオーガニックマルシェ」や、市民の目線でまちの魅力を伝えるためにZINEを作成した「手紙と旅手帖」など、まちなか賑わいづくり活動支援事業により、まちなかにおける新たな魅力の創出や情報発信を図った。</p> <p>認定事業では、既存の認定事業者をサポートする事業も新たに生まれた。</p> <p>中島川・寺町エリアにおいて、町家の保存・活用などの取組みにより、和の魅力を顕在化を推進した。</p> <p>まちなかの賑わいが創出されていくなかで、誘導案内板や休憩施設の整備により、まちなかへの来街を促し回遊性を高めることが今後の課題である。</p>	<p>(成果・課題等)</p> <p>目標を概ね達成した。</p> <p>当年度は、まちなか賑わいづくり活動支援事業による、工事の仮囲いを利用した案内板の設置や、路地の魅力を向上させるために開催された「銅座サルデンまつり」により、まちなかにおける新たな魅力が創出されるなど、エリアの魅力の情報発信につながった。</p> <p>また、館内では景観デザインのワークショップが開催され土神堂前広場の提案がなされるなど、まちなかの賑わい創出に繋がる取組みの推進が行われた。</p> <p>今後、さらにまちなかの賑わいを創出していくため、ハード整備が進む中で各エリアの魅力などの情報発信を行うことや、多様な主体の参画を促すことが今後の課題である。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度	
2	(事業名) 市街地再開発事業(新大工町地区) 【E5-2へ再掲】 【都市計画課】 (事業目的) 地元組合が、施設の老朽化・耐震化、地区の賑わい再生を実現するために実施する市街地再開発事業に対し、支援を行う。 (事業概要) 【事業期間】平成26年度～ 【施行予定区域面積】A=0.7ha 【事業種別】第1種市街地再開発事業 【総事業費】17,130,364千円 【事業費累計】5,167,187千円	実施年度	平成26年度～		
		成果指標	事業進捗率(事業費ベース)		
		目標値	14.5 %	31.9 %	
		総事業進捗率	7.6 %	21.9 %	
		達成率	52.4 %	68.7 %	
		決算(見込)額	183,834,869 円	1,335,062,658 円	
		当該年度執行率	21.6 %	69.3 %	
		成果指標及び目標値の説明	本組合設立に伴い、本格的に事業が進められることから、進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率とし、成果指標とした。 当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。		
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) ・組合が実施する実施設計や権利変換計画の手続き等に対し、関係機関との調整などの支援を行った。 ・実施設計に関する調性や権利変換に向けた合意形成等に時間を要し、実施設計の完成及び権利変換計画の認可時期が遅れたため、予定していた事業を次年度に繰越した。	(取組実績) ・組合が実施する既存建物解体や建築工事等に対し、関係機関との調整などの支援を行った。 ・既存建物解体において、当初想定していなかった地下構造物が見つかり、撤去に時間を要したため、予定していた事業の一部を次年度に繰越した。	
			(成果・課題等) ・実施設計の完成及び権利変換計画の認可。 ・令和4年度の完成を目指し、円滑な推進を図るため、技術的助言や事業費補助などの支援を実施する。	(成果・課題等) ・補償、既存建物解体及び建築工事の施工。 ・令和4年度の完成を目指し、円滑な推進を図るため、技術的助言や事業費補助などの支援を実施する。	
3	(事業名) 市街地再開発事業(浜町地区) 【E5-2へ再掲】 【都市計画課】 (事業目的) 地元準備組合が、施設の老朽化・耐震化、地区の賑わい再生を実現するために実施する市街地再開発事業に対し、支援を行う。 (事業概要) 【事業期間】平成27年度～ 【施行予定区域面積】A=3.7ha 【事業種別】第1種市街地再開発事業	実施年度	平成27年度～		
		成果指標	理事会への支援率		
		目標値	100.0 %	100.0 %	
		実績値	100.0 %	100.0 %	
		達成率	100.0 %	100.0 %	
		決算(見込)額	0 円	0 円	
		成果指標及び目標値の説明	事業の初動期にあり、合意形成を進めていく段階にあることから、成果指標を準備組合の理事会開催に伴う市の支援率とした。 平成30年度、準備組合が開催する合意形成に向けた理事会の全回数の支援を予定していたため、目標率を100%とした。		
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) ・準備組合が推進計画案を基に実施する合意形成に向けた理事会に13回(全回数)出席し、技術的助言などの支援を行った。	(取組実績) ・準備組合が推進計画案を基に実施する合意形成に向けた理事会に6回(全回数)出席し、技術的助言などの支援を行った。	
			(成果・課題等) ・平成30年度は、準備組合において合意形成が進められた。令和元年度は、更なる合意形成を目指す。	(成果・課題等) ・令和元年度は、準備組合において合意形成が進められ、一部街区において、事業の具体化に向けた体制づくりが図られた。令和2年度は、事業の具体化に向けて更なる合意形成を目指す。	

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
4	(事業名) 【補助】都市計画街路整備事業 銅座町松が枝町線(銅座工区) 【土木建設課】 (事業目的) まちなか(銅座工区)の賑わいの再生及び防災性の向上、交通環境の改善を図るため、道路の拡幅改良を行うもの。 (事業概要) 【事業期間】平成26年度～令和6年度 【総事業量】L=420m、W=15.0m 【総事業費】4,621,000千円 【事業費累計】735,705千円	実施年度	平成26～令和6年度	
		成果指標	事業進捗率(事業費ベース)	
		目標値	27.4 %	30.7 %
		実績値	18.2 %	26.3 %
		達成率	66.4 %	85.7 %
		決算(見込)額	328,027,207 円	480,217,379 円
		当該年度執行率	43.5 %	70.3 %
		成果指標及び目標値の説明	事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率とし、成果指標とした。 当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。	
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 用地取得A=314.19㎡、移転補償8件、建物調査を実施した。移転補償について建物解体の作業期間を考慮して令和元年度に繰り越した。 (成果・課題等) 用地取得を推進し、事業進捗を図る。	(取組実績) 用地取得A=104㎡、移転補償6件、建物調査を実施した。移転補償について建物解体の作業期間を考慮して令和2年度に繰り越した。 (成果・課題等) 用地取得を推進し、事業進捗を図る。		
5	(事業名) 【補助】都市計画街路整備事業 新地町稲田町線 【土木建設課】 (事業目的) 十善寺地区の交通環境の改善及び居住環境の向上、まちなかの回遊性向上を図るため、道路の拡幅改良を行うもの。 (事業概要) 【事業期間】平成12年度～令和4年度 【総事業量】L=400m、W=15.0m 【総事業費】4,100,000千円 【事業費累計】3,089,899千円	実施年度	平成12～令和4年度	
		成果指標	事業進捗率(事業費ベース)	
		目標値	78.3 %	77.8 %
		総事業進捗率	76.4 %	77.6 %
		達成率	97.6 %	99.7 %
		決算(見込)額	46,085,778 円	92,721,028 円
		当該年度執行率	36.5 %	94.7 %
		成果指標及び目標値の説明	事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率とし、成果指標とした。 当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。	
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 工事L=124.0m、移転補償9件を実施した。 (成果・課題等) 用地未買収部分の交渉を進め、電線類地中化との工事連携を図りながら事業進捗に努める。	(取組実績) 工事L=13.5m、用地取得A=14.5㎡、移転補償2件、建物調査を実施した。 また、用地交渉に不測の日数を要し、建物転移補償を令和2年に繰り越した。 (成果・課題等) 用地未買収部分の交渉を進め、電線類地中化との工事連携を図りながら事業進捗に努める。		

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード:A2-2】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
6	(事業名) 唐人屋敷頭在化事業 【都市計画課】 【中央総合事務所】 (事業目的) 歴史を生かした観光拠点の整備などにより、 日中交流の歴史がいきづいたまちづくりを行 う。 (事業概要) 【事業期間】平成17年度～令和4年度 【総事業量】広場整備、唐人屋敷象徴門(誘 導門、大門)建設、地域拠点施設整備(資料 館、情報センター) 【総事業費】1,160,215千円 【事業費累計】640,653千円	実施年度	平成17年度～令和4年度	
		成果指標	事業進捗率(事業費ベース)	
		目標値	76.3 %	77.2 %
		総事業進捗率	55.2 %	57.0 %
		達成率	72.3 %	73.8 %
		決算(見込)額	29,441,942 円	21,100,174 円
		当該年度執行率	36.5 %	99.8 %
		成果指標及 び目標値の 説明	事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事 業費累計の割合を事業進捗率とし、成果指標とした。 当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。	
取組実績 、成果・課題 等	(取組実績) (仮称)土神堂前公園予定地の 用地買収及び建物補償等を行っ た。 (成果・課題等) 達成率が低いものの、公園予定 地の用地交渉が進んだことによ り、前年度から進捗が図れた。今 後も、公園の早期完成に向け用地 交渉を進める。	(取組実績) (仮称)土神堂前公園予定地の 用地買収及び建物補償等を行っ た。 (成果・課題等) 達成率が低いものの、先行取得 を含め公園予定地の用地交渉が 進んだことにより、前年度から進 捗が図れた。今後も、公園の早期 完成に向け用地交渉を進める。		